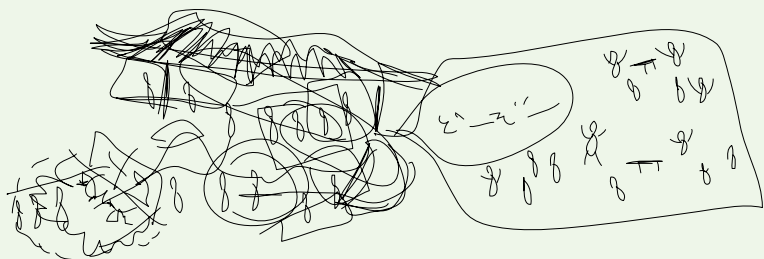




どーぞのひと言が
新しいホームをつくる



どーぞじんのいえとは

ホームパーティー形式のパフォーマンスで、役者に決められた台詞は「どーぞ」だけ。そのプロセスは約一年かけて準備される。“会場となる家を味わう会”が定期的に行われ、そこで日々のやり取りが、徐々にその場所ならではの世界観を生み出していく。観客はホームパーティーに招かれた客として「どーぞじんの文化」を体験する。

どーぞじんのいえの魅力

①新しい共同体のかたちを探る可能性

一体感があるわけではないのだが、それぞれの場所でそれぞれにのびのびと過ごす人々の表情に、新しい共同体のあり方を垣間みる。

②じっくりプロセス／積み重ねた時間の厚みがモノをいう

月に1度の「田中邸を味わう日（会場に集い、掃除をしたり、お茶会を開いたり、近所の人たちと一緒にお昼を食べたりする企画）」から始まり、打ち合わせ、見学、顔合わせ、企画など数々の小さな“集いの場”を設けていく。そして、その集いの場を通じて、縁のあった人々の中に秘められた欲望を見つけ出し、そこから“そのひとりの本番の居方”を創り出していく。そして、光や音、色やストーリーに気を配りながら、その人の作業や行為をパフォーマンス作品の中に着地させていく。

どーぞじんのいえ体験者の「訪問記」より抜粋

・そこにはいない誰かの話は、この屋敷の外に広がる人や地域の関係と、労苦も含めたリアルな生活をふと思いつき起こさせた。確かに目の前の集まりはユートピア的で、とすれば軽く「癒し」なんて言葉とも結びつけられてしまうものだろう。けれど、その背景には、たくさんの人がいて、語られなかったことが山ほどあり、その繋がりの中に「どーぞじんのいえ」は建っている。

——鈴木理映子さん（演劇ライター）

・意味、効率、目的といった価値から解放された（ようにみえる）「どーぞじんの集まり」は、なぜかそんな歴史に思いを馳せさせる。だから、あの場に懐かしさや安心を感じたのだろうし、3.11後に多くの人々が求め始めた価値を象徴する場のようにも思ってしまう。ともあれはつきりしているのは、ここには「どーぞ」の誘いをいぶかしむ常識おとなをも「なんか幸せ」な気分にする包容力とエネルギーがあるということ。先のことはわからな

いけれど、「どーぞじん」との邂逅は、どんな人生にとってままずまの吉兆であることだけは間違いないと思う。

——さんおばさん（フリーライター）

・「どーぞじんのいえ」のカオスは、そういったこれまでの活動で知り合ったひとたちの集合の場だったようです。そういうひとたちが、よそからきたお客さんをどーぞどーぞと迎える。お客さんはどーもどーもと家に上がりこむ。あとは家のあちこちでみんな勝手に座りこんで、好き勝手にしてる。

この感じ、なんか知ってる、と思ったら、公園でした。しかもかなり広い公園。都立レベルの。休みの日になると、レジャーシートを敷いてなごむ家族、散歩やスポーツをするひと、楽器を演奏するひとが、共存できる広さ。それが屋内で実現できているのは、増改築で入り組んだこの不思議な建物の力も大きいと思います。

——長島確さん（ドラマツルク、翻訳家）

レ
シ
ピ

どーぞじんのいえ

バーニャカウダ型

馴染みの野菜もじっくり蒸したら本領発揮

必要なもの

- | | |
|---|---|
| <p>◆場所</p> <p>①3つ以上の性質の異なる空間を有する家</p> <hr/> <p>◆人</p> <p>①「どーぞ」という人々</p> <p>②訪れる人々</p> <p>③写真を撮る人</p> <p>④記録係</p> <hr/> <p>◆道具</p> <p>①招待状風のチラシ、当日パンフレット</p> <p>公演のチラシは演出の富塚絵美からの招待状▷[P46 どーぞじんのいえ チラシ 参照] になっていて、帰り際に渡される当日のパン</p> | <p>フレットにはそこで時間を過ごした人だけがわかる“出来事を思い出すためのメモ”が記されている。これは口頭伝承を重要視するどーぞじんの文化への敬意の表れである</p> <p>②音</p> <p>③お菓子</p> <p>④灯り</p> <p>⑤遊具</p> <p>⑥座布団</p> <p>⑦物語</p> <p>⑧お茶</p> <p>⑨建物／工作物</p> <p>⑩カメラ</p> |
|---|---|



つくりかた

◆プロセス

- ①運営メンバーを募る：3名以上
- ②ディレクターを選ぶ
- ③場所を探す：魅力的な家
- ④「集いの場」をつくる。「どーぞじん」をつくる
- ⑤いろいろなところで出会った人たちを会場に再編成する
- ⑥招待状を書く：運営メンバー3人がそれぞれの友達に招待状を送る（異なる内輪を複数存在させるために）
- ⑦ディレクターは小さな集いの場に集まった人の中から、以下の担当者を選ぶ

- ・音
- ・お菓子
- ・灯り
- ・人々
- ・遊具
- ・座布団
- ・物語
- ・お茶
- ・建物／工作物
- ・カメラ

以上の10名とディレクターが中心になって当日まで準備をする

- ⑧開催当日「どーぞ」といってお客さんを迎える

◆当日の様子（2013年3月の例）

- ①門に近づくと色々なモノオトが聞こえてくる。小さな入り口から入る
- ②庭で受付を済ますと2階の窓からクッションが投げられ、手渡される
- ③玄関に酒屋のケースを変形させて作った下駄箱があり、座布団に乗ったどーぞ

んが、出迎える

- ④家の中を自由に回遊しながら見学し、お茶を飲みながら、そこに居るどーぞじんたちとのんびり時間を過ごす
- ⑤2階の大広間に全員で集まって挨拶と乾杯があり、風変わりなお菓子を食べながらどーぞじんたちと語り合う
- ⑥近所のお花屋さんがバラや差し入れを届けに来たり、お客さんが突然踊り出したりと、その場に起きるささやかな出来事を時間の許す限りじっくり味わう
- ⑦最後に集合写真を撮る

◆どーぞじんをつくるポイント

- ①3ヶ月以上のある一定期間、様々な場所で小さな集いの場をつくる
 - ②小さな集いの場を繰り返しおこない「どーぞじん」の習慣をつくりだす
- ※「小さな集い」の条件：本番の会場とその他の場所、合わせて3つ以上の異なる場所でおこなう



ホームパーティー形式パフォーマンス

どぞじんのいえ チラシ



拝啓 梅のつぼみも膨らみはじめ春めいてまいりましたが
みなさま いかがお過ごしでしょうか

ここ数年 台東区にある谷中界隈を中心に活動をしていたのですが
とても素敵な人たちに会いました

出会ったばかりの頃は おもむろに不思議なものを手渡してきたりするので
少し戸惑いましたが 最近では一緒に食事をしたり
時間があると一緒にどこかに出掛けたりもしています

その人たちは皆「どぞ」と言うのが口癖になっているので
彼らは「どぞじん」と呼ばれています

このたび その「どぞじん」がよく集っている「どぞじんのいえ」で
ホームパーティーがあります

急なことではございますが よろしければ「どぞじん」に会いに
いらっしやいませんか

「どぞじん」のつくるお菓子を食べながら 音楽を聴いたりお茶をしたり

アルバムを開いたりして交わす「どぞじん」とのおしゃべりが

みなさまの心にあたたかな春を届けます

彼らのホームパーティーには

ときどき「妄想アイドル」と呼ばれる方々が訪れます

めったに出会える方たちではないので この日も会える確証はないのですが
とてもチャーミングな方々なので ぜひみなさまに紹介したいです

なかなか皆様と集えず 互いの近況をゆっくりと話す機会も持てない中

この度はよい機会なので わたしたちの出会いと

さらなる新たな出会いとを祝福して 集合写真を撮ろうと考えております

お越しの際は お気に入りの格好で

「どぞじんのいえ」まで足をお運びください

みなさまの一人一人のお顔を（これから出会う方のことも妄想し）
思い浮かべながら 首を長くしてお待ちしております

敬具

「どぞじんのいえ」企画・演出

富塚絵美